

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水 樋を使った遊び

<テーマの設定理由>

樋のような水流し玩具を使ってボールを転がす遊びを通し、子どもたちがボールを遠くまで転がす方法を考え、自ら工夫し探求する姿が見られた。この活動を通じて友だちと協力し、水路づくりのアイデアにも繋がるよう、5歳児のみでじっくりと取り組む環境を作る。

2. 活動スケジュール

令和7年2月25日（火） ひまわり組 5歳児…13名
・ 樋を見してみる。平らなところに置いて繋げられることを知る
・ 繋げた樋の端に子どもが座り、ボールを落とさずに転がして遊ぶ
・ 園庭の広い場所で、砂場の道具等も活用し、樋を繋げて遊ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・ 樋の玩具 ・ ボール ・ 砂場の道具等
※5歳児が広く園庭を使え、じっくりと遊びこめる時間を選んだ。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

室内で樋のおもちゃであそび、繋げる楽しさやボールが転がる道をつくる面白さを感じていた。園庭の広い場所で樋とボールを使い遊ぶ。一人でじっくり取り組む子やグループを作って協力して作っていく子もいた。繋げてはボールを転がし、試しながら進めていた。傾斜を作るために高さが必要だと思うと、園庭にあるベンチや砂遊び用のカップを使って工夫した。ボールのゴール地点に受け皿を置いて遊ぶ児もいた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもの発想に任せ、保育士からの声掛けはほとんどせず、子どもたちで考え工夫することを大切にしました。
子ども同士で考え、意見を出し合い工夫する姿が見られた。

「どうやってつなげる？」

「だんさがひつようじゃない？」

「カップつかおう！」

「ベンチつかったらすごいさかになるよ！」

「〇〇くんのみちとこっちをつなげようよ」

「ゴールがあったらおもしろいね！」

「ボールうまくころがったー」

「あー、しっばいしたー」

「さがきゅうすぎるよ」

「そうだ！応援する人もつくらなくちゃ！」

と、樋の周りに観客（カップ）などを置くなど、ユニークなアイデアでたくさんのやりとりをしながら取り組んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは樋や周りのものの使い方を目をキラキラさせながら考え、創意工夫が次々と見られた。試しては作り直し、改善を重ねる姿から、自分で考えながら遊ぶ力の重要性を強く感じた。今後も子どもたちが自主的に考え、遊べる環境づくりを進めていきたい。今回の活動ではボールを転がしたが、今後は水を使った遊びにもつなげていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水 ひしゃくを使って花に水やりをしてみよう

<テーマの設定理由>

散歩に出ると様々な花を見る機会があり、その度に子どもたちから「かわいい」や「青色だね」と興味を持ち話すことが多かった。その様子から、何か花に関わる活動ができないかと考えた。園の入り口にある花壇は子どもたちが毎日目にしている場所でもあり、身近なものであるため、水やりをすることにした。

2. 活動スケジュール

令和7年2月26日（水） 2歳児クラス つくし組 10名
・園の入り口にある花壇の花について話をする
・水やりに使用する道具を子どもたちと確認する
・実際に花壇まで行き、水やりをしてみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・柄杓 10本
・水が入ったバケツ 1杯

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・園児は10名出席、1名ずつ行う
- ・待っている子たちは他の子の水やりの様子が見えるように座る
- ・水やりをするの前と後の違いを見える

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めて見る柄杓に「なにこれ?」「おっきいスプーン?」と興味津々な様子で水やりをする事への期待感を持って話を聞いていた。水やりをするときには、一つの花のみに水やりをする子や、いくつかの花に少しずつ水やりをする子など様々だった。水やり後には「みんなでお水あげたから元気になるね」と花にとって水やりが大切なことだと感じている子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段何気なく目にしている花に水やりをしたことで、「楽しかった!」と嬉しそうな様子や「お水あげたんだ」などと自慢げな様子も見られた。降園の支度をしながら「お花どうなってるかな」と気になっている様子など、子どもたちの様々な反応を見ることができた。水やりをすることで花を育てる気持ちや大切にすること、自然に興味関心を持ち広げることにつながっていると感じることができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

お花から色水を作ろう（4歳児）

<テーマの設定理由>

絵の具を使った色水作りを以前行った際、水の色が変化したり自分好みの色を作る面白さを体験していた。そこから絵の具ではない素材を使っても色を作ることが出来ることを知ることや水に入れた時の変化を楽しむことにつなげた。

2. 活動スケジュール

園庭にベンチを用意し、花や、すり鉢、すりこぎ、水の入ったポット、ロート（ろ過用）等の道具をセッティングする（個々に十分なスペースがある環境を作る）

自分で行う場所を決め、選んだ花に少量の水を入れて擦る。擦れたら水を足し、色水ができることを体験する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

作業がしやすいように園庭にベンチをセッティング

すり鉢、すりこぎ、水ポット、ロート（濾過用）、ペットボトル、コップ

花（赤、ピンク、紫、黄色）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・少量の水に色がついていく様子を観察しながら花を擦っていく
- ・色が付いてきたことがわかったら擦っていた所にポットで水を足していく
- ・花からの色が出て、花によって色が違うことも知る
- ・ペットボトルに移す。
- ・魔法のお水（レモンのしぼり汁）をペットボトルの中に数滴入れることで、色に変化する様子を楽しむ
- ・コップやペットボトルを使い、作った色水で遊ぶ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

花から色が出てくると「いろがでてきたー」と

目をキラキラさせながら喜んでいた。

友だちのものと比べてみながら

「いろがちょっとちがうね」と違いを発見。

水を足したらどうなるかな…と

こぼれないよう、友だちと協力して水を入れる時の表情は真剣。

「あ～緊張する～」

「あ！ごめんね。手にこぼしちゃった」

と友だちとの協力も楽しそう！

水を入れ、色が薄まると「きれーい」「ジュースだー！」と

驚きや嬉しさの声が上がった。

ペットボトルに水を移す。

もう一度、友だちと協力してペットボトルに入れる様子は

先ほどより上手になっていた。

「のみたーい！」と、楽しそうなごっこ遊びにつながった。

レモンのしぼり汁を数滴入れると色に変化する様子を見て

「うわー」と感動していた。

各自のペットボトルにレモン汁を入れるか入れないかは自分で決めた。

結局、全員がレモン汁を入れることを選び、色に変化する瞬間をじっと見ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

花を擦るところから、子どもたちのワクワクする気持ちが伝わり、何が起きるのかを想像しながら、色水ができる過程を楽しんでいる様子が見られた。花から色が出ることを知った子どもたちからは「はっぱはどうか？」と花以外のものにも挑戦したいという声が上がった。今後は散歩で色が出そうな植物を探し、いろいろなもので色水作りを試していきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水	樋をつなげて	水を流してみよう	5歳児
---	--------	----------	-----

<テーマの設定理由>

前回は樋をつなげてボールを転がした。遠くまで転がすためには、段差を作る、樋がはずれない工夫等、友だちと試行錯誤しながら樋の道を伸ばしていた。今回は今度はお水を流してみようと子どもたちと約束し、今回は、「水」流すことにした。

2. 活動スケジュール

令和7年3月25日（火） ひまわり組 5歳児 11名
・今回は、ボールではなくお水が流れる道を作ることが目標
・園庭にあるものは何を使ってもOK
以上のことだけ確認し、子どもたちが自由に取り組む。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

雨樋、お水のいった入れ物、ポット、
砂場の道具、カゴなど園庭のものは自由に使ってOK
・5歳児だけが園庭を使える時間（午睡時間）にし、じっくり取り組める環境で行った
・終了時間をあらかじめ伝えた

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

前回、ボールを転がす楽しさ、長い距離をボールが転がることの難しさを感じながら、友だちと協力し、取り組んでいた。今回は、ボールよりも難しい「水」に挑戦する。取り組み始める際に、「まずはこの間と同じようにボールでやって、転がるか試してみよう」と複数の児が言っていた。手早く樋を繋げ、ボールを転がすと、その楽しさに夢中になり、しばらくボールで遊んだ後に「水」のことを思い出す。水を流すが、途中でこぼれてしまい、なかなか距離は伸びない。友だちと相談し、お互いに良い案を取り入れながら取り組む姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（前回のボールを転がした経験があるため、保育者は子どもたちの展開を見守る）
「まずはボールをころがして、うまくいったらお水を流そう！」
「そうだね！そうしよう！」子どもたちは手早く、前回と同じ場所で作り始める。
前回、ボールの距離が伸ばせなかったグループの児は、上手くいていたグループに加わっていた。
あっという間に樋は繋がられ、ボールを転がす。
「あー、ここで止まるなー」「よし！高くしよう！」
前回の経験があり、思い切りよく高さをつけるが、高低差がつきすぎて別のところで不具合が起きる。
試行錯誤をしながらボールを転がすことに夢中になっている。



しばらくしてようやく水を流す目的を思い出し、少しずつ水を流す。
樋の連結部、最初の2か所ですべての水が流れ、なくなる。
3回目の水流しで、水がなくなる原因に気づく（隙間がある、合わせが逆）
水を長い距離流したい3名は、工夫を重ねながら、途中の水がこぼれ落ちる場所の下にカップを置いた。途中から、そのカップに水がたまることを喜び、遊びは続いた。
片付けの時間になると「あー、楽しかったね！」と、全員が手際よく、樋の片づけはあっという間に終わった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回は2回目ということもあり、子どもたちは前回の経験を活かしながら、意見を出し合い協力して活動を進める姿が多く見られた。水よりもボールが転がることの方が楽しく、途中で水だけを流してみたものの、「やっぱりボールと一緒に流そう」という意見で一致していた。水の流れを確認しつつ取り組む子どももいれば、最後までボールの転がりを楽しむ子どももいた。経験を重ねることで楽しさが増し、工夫や作業の分担の変化、他のグループを手伝う姿など、関わり方の発展が見られた。また、友だちとの意見の違いを乗り越え、同じ目標に向かって協力する場面も多く見られた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水
水車で遊ぼう 2歳児

<テーマの設定理由>

保育士から「水を使うのはどんな時？」と問いかけると
「てをあらう」「おみずあそび」と具体的な場面の声があがる。
2月に行った”柄杓を使って花に水やり”を行ったことを振り返り、水車を見せると
「ここ（バケツ）にみずをいれると、ここ（羽根車）がまわるとおもう！」
「やってみたい！」と興味がある姿がみられた。

2. 活動スケジュール

令和7年3月26日（水） 2歳児クラス つくし組 10名
園庭中央にて、高さ約50cmの丸太の椅子の上に水車二台を置き、子どもたちがバケツから柄杓で水をすくい、水車のバケツ部分に入れ、羽根車が回る様子や水の動きを観察しながら楽しんだ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・水車（プラスチック製） 2台
- ・柄杓 2本
- ・水2リットルが入ったバケツ 1杯

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・園児は8名のため2名ずつ行う
- ・待っている子にも羽根車の動く様子が見え、水を注ぐときの音が聞こえるよう、座る位置を調整する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
水車を見せると「これなあに？」「きれいないろ（水車の羽根車部分）だね！」とこれから行うことに期待する姿がみられる
柄杓で水をすくいバケットに入れるとどうなるかを聞いてみると1名の男児から「くるくるまわるとおもう！」と、声があがった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

水車のバケットに水を入れると「ちゃぽっておとがする！」、羽根車が回ると「やっぱりまわるんだね！」「すごいね！」と、予想していたことが現実になったことが嬉しそうであった。二名ずつ行い一周すると「もういっかいやりたい！」と意欲があるため、その後も何度も行った。子どもたちのワクワクしている表情を見ることができ、とても嬉しく感じた。来年度の水遊びの時期にも水車を使い、夏ならではの遊びを楽しんでいきたいと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

様々な色の花がらを使って、色水を作ってみよう（3・4・5歳児）

<テーマの設定理由>

前回、3、4歳児が参加した活動の話を聞き、5歳児も興味関心を持っていた。3、4歳児も「もう一度やりたい」「もっとやりたかった」と話していた。

2. 活動スケジュール

令和7年3月27日(木)10:10～10:50

3、4、5歳児 ひまわり組（3歳児…10名、4歳児…10名、5歳児…10名 計30名）

園庭に、すり鉢、すりこぎ、じょうろ、コップ、ペンチを準備する。

- ・保育者がやり方を見せながら、色水の作り方を簡単に説明
- ・好きな花がらを選び、好きな場所で色水作りをして良いことを伝える

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

こども用ペンチ 3台

すり鉢、すりこぎ、じょうろ、コップ 人数分

花がら（前回の残り分を使用） 適量

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者の話を聞いてから活動を始める。3、4歳児は前回の経験を踏まえてスムーズに取り組み始めた。5歳児もすぐに理解し、それぞれ自分の好きな花がらを選んですりつぶしていた。近くにいる友だちと一緒に夢中になって花がらをすりつぶしたり、気の合う友だちと集まってすりつぶした花の色や、汁の状態を伝え合っていた。花がらをすり潰すことに満足した子どもから、水をいれて色水作りを行い、自分が作った色水をじっくり観察したり、友だちと比べ合う姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「どの色の花がいいかな」
と慎重に選んだり、
「一緒に紫にしよう!」
と友だちを誘いあっていた。



「ちょっと色が出てきた!」
「なかなか潰れないね、どうやってやったの?」
「ぎゅって、やるんだよ」と友だちと
話し合っていた。保育者が水を少し入れてみることを
提案すると、水と一緒にすり潰し、混ぜていた。
「こっちは黄色になってきたよ」
「花の色と違う色になってる」



「もうできたから、ジュースにする」
保育士に手伝ってもらったり、
「自分でやってみる」と
花がらの入った水を漉して
色水作りを楽しんでいた。
できた色水の色を友だちと比べたり
ジュース屋さんごっこをして楽しむ子もいる。



「違う花を混ぜたらどうなるかな」「太陽に当てると色が違う」と探究活動を楽しんだり、友だちが花がらを混ぜてすり潰した色を見て驚いていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3、4歳児は前回経験していたこともあり、手順が分かりスムーズに進められていたことにより、自分の興味や関心を広げたり、掘り下げていくことができていた。5歳児は、友だちと一緒に考えたり、相談しながら、活動を楽しんでいく中で生まれた疑問を確かめようとする姿が見られた。5歳児が参加したことにより、やっていることを3、4歳児が真似たり、発想に驚いたり、楽しさを共有することができていた。この活動の後、公園に出かけると、公園の草や、雑草の花を見つけて「これはどんな色になるかな」と、友だちと草花を探しあう姿があり、身近なものからどんな色水ができるか考えていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

試験管を使った色水遊びを楽しもう

<テーマの設定理由>

以前、試験管を使って色水遊びを行った際、色の濃淡だけでなく、色を混ぜたり、沈殿していく様子が夢中になっていた。「楽しかったから、またやりたい」「今度は違う色もやりたい」と子どもたちが話していた。

2. 活動スケジュール

令和7年3月28日(金) 14:10~15:00 5歳児 9名

赤、黄、青、紫、緑、白色の色水と水道水を用意しておき、子どもたちがスプイトで好きな色
の色水を選び、色水の量や、水の量を自分で思うままに入れていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・試験管セット（プラスチック製） 9セット
- ・スプイト 20個
- ・水をいれたカップ 2個
- ・絵の具（赤、黄、青、紫、緑、白）
- ・色水をいれるためのパレット 2個

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

試験管セットを一人1セットずつ準備し、6色の色水や、透明な水を自由にスポイトで入れてよいことを子どもたちに話す。それぞれ好きな色水を選んで試験管に入れると、水を入れて、色が薄くなっていく様子を楽しんでいる。薄めた色水をそっと混ぜ合わせて沈殿する様子を観察する子や、様々な色の組み合わせを考えて、色水を作り、並べた試験管を比べて楽しむ子、自分の服と同じ色を作ろうとする子もあり、子どもたちが発想力豊かに考えて実践している姿があった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「どの色にしようかな」「紫と白を混ぜてみよう」
考えていることを声に出しながら、友だちと色水遊びを楽しんでいる子や、一人で集中し、色水や透明な水の量を調節しながら試行錯誤している子と、それぞれに楽しんでいた。スポイトで水や色水を入れる時には、こぼさないように慎重に入れようとしたり、どんな結果になるか、じっくり観察しようとする眼差しが感じられた。



「なんだか変な色になっちゃったなあ」と
呟いていた子に、保育士が「どんな色？」と
尋ねると「濃い紫かな」「毒の色!」と、
色水を作った子や、その話を聞いていた
周りの子も一緒に答えていた。



作った色水を混ぜ合わせて、色水が沈殿して
いく様子を楽しんでいる。試験管を持ち
上げて、軽く揺すり、混ぜ合わせている姿は
研究者のようだった。



「この前は失敗しちゃったからなあ…」「今日は緑を作りたい」
と話していた子が、色の違う緑色を作ろうとしていた。
隣にいた子が気づき、興味を持てのぞき込む。保育士が
「今日の洋服の色に似てるね、どれが近いかな?」と尋ねると、
「これ!」と指さしている。緑色の色水を最後まで作り続け、
最後には「どの色が一番洋服の色に近いかな」と友だちと盛り
上がっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

前回よりも色を増やしたことにより、活動を始めるときに子どもたちの期待が高まっている様子が感じられた。前回の経験を振り返り、再現しようとしてみる子や、違う色をもっと試してみようとする子どもたちの姿が見られたことが良かったと思う。今後は活動として時間を設定するだけでなく、日常的な遊びの中でも試験管遊びを取り入れ、子どもたちの発想力や試行錯誤していく力を育てられるよう、環境づくりを行っていきたい。